

# 〈小学校生活部会〉

## 研究主題

「自立への基礎となる資質・能力を育てる学習の在り方」  
～児童一人一人の実態に応じた指導の工夫～

## 研究の概要

児童一人一人に基礎・基本を確実に定着させるとともに、学びを発展させる学習指導を工夫・創造していくことが重要な教育課題となっている。

そこで、本部会では、次の2点について研究を進めていくことにした。

- (1) 「自立への基礎となる資質・能力」を明らかにし、その資質・能力をはぐくむ具体的な活動や体験を生かした指導計画を作成する。
- (2) 児童の実態や指導の場面に応じて効果的な指導方法を柔軟かつ多様に導入し、適切な支援を計画的に行う。

## I 研究の目的

生活科で育てたい資質・能力を明確にし、個に応じた指導を適切に行うための指導計画の作成と検証を行う。

## II 研究の方法

- (1) 研究主題の検討と決定
- (2) 「自立への基礎となる資質・能力」を明確にし、それを育てる具体的な活動や体験の在り方と、「活動や体験についての思考・表現」に重点を置いた支援のポイントの検討
- (3) 生活科における学習指導要領の基準性を踏まえた個に応じた学習の在り方の考察
- (4) 検証授業及び検証授業についての考察と研究のまとめ

## III 研究の内容

### 1 研究主題に迫る考え方

- (1) 「自立への基礎となる資質・能力」の明確化

自立への基礎を養うことは生活科の究極的な目標であり、自立とは、学習上の自立、生活上の自立、精神的な自立を意味している。また、生活科は具体的な活動や体験を通して、よき生活者として求められる資質や能力を育て、それを確かなものにしていくことを目標としている。児童に自立への基礎を身に付けさせるためには、意義のある具体的な活動や体験を指導計画の中に位置付けることが必要である。それには「自立への基礎となる資質・能力」を具体的に表し、それが学習活動を通してはぐくまれる授業をつくっていかねばならないと考えた。

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
○思い・願いを活動につなげる力	○対象とかかわり考える力	○対象に気付く力
○進んで活動する力	○気付きを伝え合う力	○自分への気付きと自己効力感
○持続する力		○生活に生かす力

(2) 「自立への基礎となる資質・能力」を育てる具体的な活動や体験の要件

「自立への基礎となる資質・能力」がどの児童にもはぐくまれるためにどのような具体的な活動や体験をさせるとよいか、その要件を小学校学習指導要領解説生活編や先行研究等を参考に、【活動や体験の要件】として下記の①～⑥に整理した。

- ① 児童の思いや願いに基づいた活動
- ② 児童が夢中になれる活動
- ③ 児童が対象にかかわる方法を考え、行動できる活動
- ④ 児童が繰り返し活動でき、深化が図れる活動
- ⑤ 児童が自分らしく表現できる活動
- ⑥ 児童が自分の学びや育ちを振り返ることができる活動

**【活動や体験の要件】**

(3) 「活動や体験についての思考・表現」に重点を置いた指導と評価

低学年の児童は、具体的な活動を通して思考する。試行錯誤したり、繰り返したりしながら体全体で学んでいるのがこの時期の発達上の特徴である。具体的な活動の中で諸感覚を使って感じ取ったり、道具などを使って作ったりできるようになると、児童は一層自発的・能動的に対象にかかわっていくようになる。活動と思考の一体化である。さらに、活動して楽しかったこと、驚いたこと、感動したこと、不思議に思ったこと、考えたことなどを、だれかに伝えたり表現したりしてみたいくなる。熱中し没頭したこと、発見や成功の喜びなどは、表現への意欲や次の活動への原動力となる。活動と表現の一体化である。

そこで、授業中に見られる児童の具体的な姿を「活動や体験についての思考・表現」の観点から想定し、**思考・表現を高める【支援のポイント】**（以下、**【支援のポイント】**と記す）を考えた。

- ア 今までの自分の体験や認識を価値付け、自信をもたせる。
- イ 「こんなことをやりたい」という活動へのイメージをもたせ、具体化させる。
- ウ 児童の思いや願いを導き出す。
- エ 児童の興味・関心の実態を見取り、環境構成や活動への誘いかけを工夫する。
- オ 対象とのかかわりを多くする。
- カ 友達との交流を促す。
- キ 思いや願いの実現に向けて、試行錯誤させる。
- ク 自分の活動を振り返り、考える視点を与える。
- ケ 達成感・満足感を味わえるように価値付ける。

**思考・表現を高める  
【支援のポイント】**

(4) 生活科における「学習指導要領の基準性」、「補充的な学習」、「発展的な学習」について

ア 生活科における「学習指導要領の基準性」について

すべての児童に指導する内容（共通性）と、一人一人の児童に応じて指導すべき内容（個別性）を明確にして指導に当たることととらえた。

イ 生活科における「補充的な学習」と「発展的な学習」について

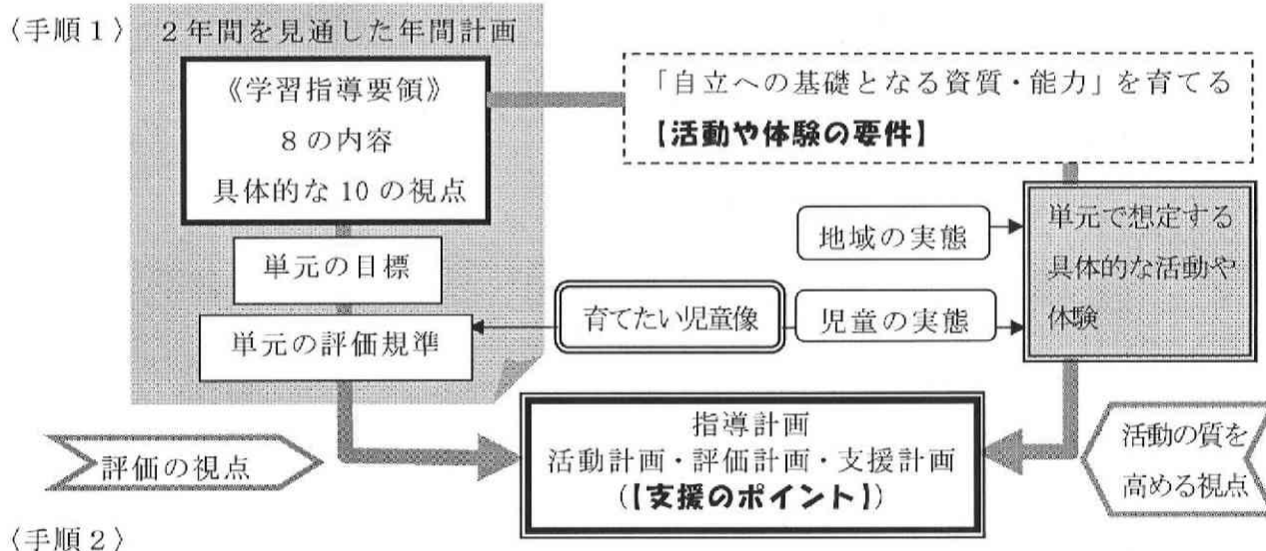
・生活科では、内容に多様な活動や体験が含まれており、それ自体に「補充的な学習」

や「発展的な学習」が含まれていると考える必要がある。

- ・「補充する」とは、評価規準に照らし努力を要する部分を補うものととらえた。そこで、努力を要する状況の児童に対して興味・関心をもつように支援したり、方法を示唆したり、気づきを促したり、直接手伝ったりするなどの手だてを行った。また、体験を再現させる学習や、個人内評価による個に応じた学習を行わせることも有効であると考え、指導した。
- ・「発展させる」とは、学びや気づきをさらに「広げる」「深める」「強める」ことで「生活化」させるものととらえた。児童は自分自身に気付くことで自己認識を深め、意欲を高めたり、新たな意欲を喚起したりするようになる。また、学習したことを生活の中で実践したり、他の場面で活かすことができたりしたとき、児童は新たな課題を自分で見つけ出し、主体的に活動を進め、「生活化」につなげていく力を得る。児童の学びや気づきを「広げる」「深める」「強める」ことで「生活化」させるために、振り返る活動が効果的な手だてであると考え、振り返りの活動を重視した指導を行った。

#### (5) 生活科学習指導案作成の考え方

##### ア 指導計画作成の考え方



児童一人一人の実態に応じて指導していくためには、評価規準による適切な評価とそれに応じた指導・支援が必要である。評価規準に基づいた評価の視点に照らして児童の学習状況を見たときに、「満足できる状況」にある児童と「努力を要する状況」にある児童への指導者の支援を指導計画に位置付ける。そのときに「活動や体験についての思考・表現」をはぐくむための【支援のポイント】(52ページ参照)を基に支援計画を立て、児童一人一人の実態に応じたより適切な支援を行った。

##### イ 指導計画の実際

単元名 第2学年 「みんなでつくろう フェスティバル」(18時間)

《学習指導要領》		
内容(6) 身の回りの自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして遊びを工夫し、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。		
具体的な視点	イ 身近な人々との接し方	ク 遊びの工夫

【単元の目標】

- 身近な材料を利用して、フェスティバルに使うものを工夫して作ったり、遊びやルールを工夫したりして、みんなで遊びを楽しむことができる。
- 自分たちのフェスティバルの計画や準備、実施を通して、進んで身近な人々とかかわり、自分や身近な人のよさや人とかかわることの楽しさに気付く。

【単元の評価規準】

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
○身近なまつりについて関心を持ち、自分たちのフェスティバルを通していろいろな人と楽しく遊ぼうとしている。	○身の回りの自然や身近にあるものを使うなどして、遊びやルールを工夫する。 ○活動を通して工夫したことや気付いたことを表現し、伝え合う。	○自分たちのフェスティバルを楽しむことを通して、身の回りの自然や身近にあるものを使って遊べることや身近な人々とかかわることの楽しさに気付く。

【育てたい児童像】

- やりたいことを決め、最後までやり通す子
- 遊びを作り出すことを楽しみ、考えたり工夫したりする子
- 身近な人々と進んでかかわり、自分や友達のよさに気付く子

(本単元で想定する具体的な活動や体験)

- ◇自分の経験や友達のまつりについての発表からフェスティバルへのイメージを広げる活動
- ◇身近な材料を使って必要な物を作る活動
- ◇遊びやルールを工夫してみんなで楽しむ活動
- ◇友達と協力してフェスティバルをつくる活動
- ◇幼稚園児・保育園児、異学年との交流体験

指導計画例 (全 18 時間扱いの一部)

	主な学習活動	活動のまとめりと評価規準	思考・表現における評価の視点	指導者の支援 【支援のポイント】 ◇おおむね満足できる状況 ◆努力を要する状況
みんなでつくろうフェスティバル(5〜9)	○ 必要なものや方法を考える。(1) <b>○ 友達と相談しながら、工夫して作ったり遊んだりする。(4)</b> (本時は2/4)	関心・意欲・態度 ・フェスティバルの準備を協力しながら進め、楽しく遊ぼうとしている。 思考・表現 ・身近な材料を利用して、工夫して作ったり遊んだりすることができる。 ・みんなが楽しめるように、やり方やルールを工夫することができる。 気付き ・身近な材料を利用して工夫して作ったり、遊び方やルールを工夫して遊んだりすると、楽しいことに気付	・身近な材料を利用して、みんなで楽しく遊べるように、やり方やルールを工夫して作っている。	◇自分のやりたいことに何が必要か見通しをもって考えられたことを認め、その考えを同じグループの友達にも広げられるように促す。【カ】 ◆具体的にどのようなやり方をしたいと考えているのか聞き取り、一緒に考えるようにする。【ウ】 ◇発見や成功を価値付け、他の場面での活動に生かす状況をつくる。【エ】 ◇工夫している点を誉め、よさを価値付ける。【ケ】 ◆思いを聞き取り、材料の使い方を助言したり、一緒に活動したりする。【エ】 ◆友達に手伝ってもらうようにすすめる。【カ】

ウ 本時案作成の考え方

①評価の視点から「予想される児童の姿」を想定する

評価の視点（特に活動中の思考・表現の視点に重点を置いた）に基づいた「予想される児童の姿」を想定する。そして、「満足できる状況□」「努力を要する状況■」について児童の具体的な姿を想定する。

②ねらいを明確にさせ、振り返りの時間を設定する

学習の始めには、児童がその時間のねらいをしっかりととらえられるようにする。また、終わりには、学習を振り返る時間を設定する。自分の気づきを確認したり友達と互いに気づきを伝え合ったりすることで、気づきが価値付けられ、次の活動に生かされるきっかけとなる。

- (1) ねらい フェスティバルをするために、みんなで楽しめるような遊びを作ったり遊んだりする。  
 友達と共に活動することで、自分や友達のよさに気付く。
- (2) 評価の視点 **思考・表現** ・身近な材料を利用して、みんなで楽しく遊べるように、やり方やルールを工夫して作っている。  
**気づき** ・自分や友達のがんばりや工夫に気付いている。
- (3) 本時の展開

児童の活動	□満足できる状況	■努力を要する状況	教師の支援	◇満足できる状況	◆努力を要する状況	支援のポイント( )
1. 本時のねらいや注意事項を確認する。(5分) みんなで楽しく遊べるお店を作ろう 自分や友だちのがんばりや工夫を見つけよう				・本時の活動について見通しがもてるように、内容や時間の予定について伝える。 ・安全面で気を付けることを伝える。 ・活動の中で自分や友達のがんばりや工夫をよく見ておくように伝える。 ・各グループが活動する場所の間隔をとり、子どもが活動しやすいようにする。		
2. 身近な材料を使って、フェスティバルでみんなが楽しめる遊びを作る。(30分) ~予想される児童の姿~ □意欲的にアイデアを出してすすめている。 □自分なりに工夫して作っている。 □友達と協力して作り方やルールを工夫している。 ■作りたい物はあるが、どう作ったらよいかわからない。 ■何を作ったらよいかわからない。 ■自分の思いだけで活動をすすめてしまう。 ■材料や道具がうまく使うことができなくて困っている。 ■興味が他の方向へ移ってしまう。			◇「～のところがいいね。」など、子どもが工夫していることなどを具体的にとらえて励ます。(エ) ◇自分の工夫を友達にも伝えたり、広げたりさせる。(カ) ◇友達と共に作るよさを認識させ、価値付ける。(カ) ◇どのように作りたいのか思いを聞き取り、具体的な方法をいくつか示し、よりよい方法を考えさせる。(イ)(ウ) ◆同じグループの友達と何をするか相談するように促す。(カ) 状況によっては、教師も一緒に考えて、活動する。 ◆グループとして活動が活発になるように考えさせる。(カ) ◆教師や友達が手をかしながら自分でやるように励ます。(キ) ◆自分達も遊んで楽しいかどうか考えさせる。「どういうふう遊ぶの」「どんなふうにしたらもっと楽しくなるかな」などより楽しくなるような工夫を促す。			
3. 活動を振り返る。(10分) ・自分達がみんなで遊びを楽しめるように工夫していた点を知らせ合う。 ・ふりかえりカードに記入する。						・自分や友達のがんばりや工夫をお互いに伝え合う時間を設定することで、気づきを広げたり共有したりできるようにする。

③【支援のポイント】を基に、具体的な「教師の支援」を設定する

評価の視点に基づいた「予想される児童の姿」それぞれに応じた「教師の支援」を、【支援のポイント】を基にして設定した。


本時の指導では、児童の学習状況を「予想される児童の姿」に照らし合わせて判断し、想定した教師の支援をしていくことで、一人一人の実態に応じた指導をすることができると考えた。



## 2 指導事例

(1) 振り返りの活動を重ねたことにより、生活化につながった事例

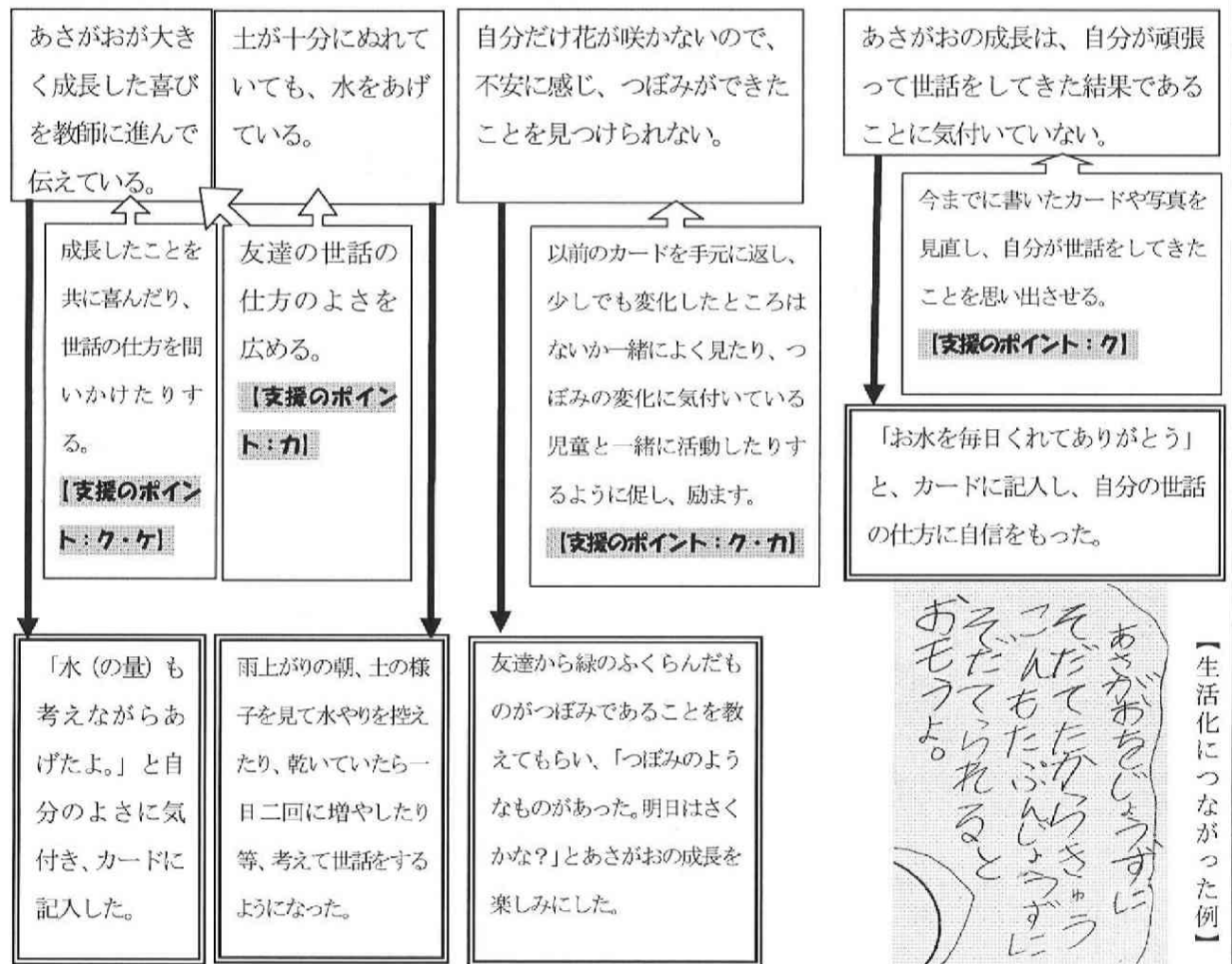
単元名：第1学年「あさがおをそだてよう」

<p>主な活動の流れ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">小単元</span></p> <p>・主な活動</p>	<p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">たねをまこう ②</span></p> <p>・種を見て気付いたことや思ったことをカードに書く。</p> <p>・あさがおの種をまく。</p>	<p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">あさがおの世話をしよう ⑥</span></p> <p>・芽が出たあさがおを観察し、その喜びを表現する。</p> <p>・あさがおを育てる。</p>
<p>〈単元の評価規準〉(思考・表現)</p> <p>・あさがおの世話の仕方について考えるとともに、世話をしたことや成長したこと、その喜びについて表現できる。</p> <p>◎「思考・表現」における評価の視点</p>	<p>◎種に対する自分の思いをもち、絵や文・言葉などで表現している。</p>	<p>◎あさがおの成長や変化を</p>
<p>〈想定した具体的な活動や体験〉</p> <p>○きれいな花を咲かせたい、たくさん咲いてほしいなど、思いや願いをもってあさがおを育てる活動</p> <p>○どれくらい水をあげようか、どこに鉢を置こうか等、あさがおのことを考えながら育てる活動</p> <p>○あさがおを育てる活動を通して、あさがおの様子や友達のように気づき、表現する活動</p> <p>○あさがおを育てた満足感をもち、今までのことをまとめ、振り返る活動</p> <div style="border: 2px solid black; border-radius: 20px; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p><b>【振り返り活動の工夫】</b></p> <p>①カードの工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文字が未習熟な児童には、絵のみかかせる。</li> <li>・カードの形式を二種類用意して選ばせる。</li> <li>・あさがおになりきって自分への手紙を書かせる。</li> </ul> <p>②写真の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が機会をとらえ、児童とあさがおの写真を撮り、カードに貼ったりして活用する。</li> </ul> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>植物を育てたことがなく、こんな花が咲くといいな、きれいな花になって欲しい等の思いや願いがもてない。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>「名前を付けてもいいんだよ。」「どんなお花を知っているかな。」「何色の花が咲いて欲しい。」等、児童が思いをもちやすいような声かけをする。</p> <p><b>【支援のポイント：ウ】</b></p> </div> <p>ひまわりの花を知っていたので、「くりひまわり、2こさいてね。」とカードに記入した。</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>あさがおの芽の絵をかいたが、あとはなにをかいていいのか分からず、ぼんやりあさがおをながめている。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>「芽が出て、今どんな気持ちか教えて。」と、表現のきっかけを与える。また、文字を書くことに抵抗を感じている児童には、聞き取って教師が書き取るようにする。</p> <p><b>【支援のポイント：エ】</b></p> </div> <p>「あさがおさん芽を出してくれてありがとう。」とカードに記入したり、「あのね、とってもとってもうれしいの。」と言葉で伝えたりする。</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">児童の姿</div> <p>↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">教師の支援</div> <p>↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">児童の変容</div> </div> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  </div>	

〈単元の目標〉

- ・植物を育てる楽しさを味わい、愛情をもって大切にすることができる。
- ・植物の成長や変化に気付き、生命があることが分かり、頑張って世話をした喜びを感じる。

<p>あさがおの世話をしながら、あさがおの成長の様子と自分・友達の前張りやよさについて気付いたことをカードに記入する。</p>	<p>がんばったね、あさがおさん ②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・種とりをする。</li> <li>・今までの活動を振り返る。</li> </ul>
<p>喜び、自分なりに表現したり世話の仕方を考えたりする。</p>	<p>◎あさがおを育て上げた満足感を味わい、自信をもつ。</p>



【考察】

あさがおの成長と自分の世話の様子をたくさん記録に残し、常に振り返ることができる環境をつくった。それによって、自分が頑張ってきたことを再認識し、自分がかかわりが価値あるものであったことに気付き、自信をもつことができた。そこから、今度は違う植物を育ててみたいという意欲につながり、チューリップを育てるときも、「まかせてね。あさがおをそだてたからきっとじょうずにそだてるよ。」と、植物を育てる楽しさを感じた。

(2) 主に「活動や体験についての思考・表現」を見取り、支援した事例  
 単元名：第1学年「あそぼうあそぼう・あき」

<p>〈本時の展開〉</p>	<p>本時のめあてを確かめる。</p> <p>もともと遊ぼう！もともと楽しく！      もともと教えてあげよう！【支援のポイント：エ】</p> <p style="text-align: right;">         作る        遊ぶ        【支援のポイント：オ・キ】     </p>
<p>〈想定した具体的な活動や体験〉        自然物を利用して作って遊んだり、飾る物を作ったりする活動</p> <p>〈本時の評価の視点〉        活動や体験についての思考・表現        遊びを工夫したりもっと楽しくしようと考えたりできる。</p> <p>〈始業前の留意点〉        ○学習カードによる思いや願いの把握 【支援のポイント：ウ】</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>A児：とんぐりごま          はっぱのおめん</p> <p>B児：記入なし</p> <p>C児：こまとかいろいろなおもちゃが作りたいな。</p> </div> <p>○環境構成の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊ぶ場と、その周囲に作る場を構成することで、作った物で遊ぶ、友達とかかわり、さらに工夫ができる学習環境にした。        【支援のポイント：カ・キ】</li> <li>・本時は作る活動の1時間目で、作りたい物のイメージがはっきりしない児童や作りながら自分の思いをはぐくむ児童が少なくないと予想された。そこで、作りたい物でグループ構成はせず、道具ごとに机を用意し、使いたい道具の場所で活動できるようにした。        【支援のポイント：エ】</li> </ul>	<p>〈活動の様子と支援の実際〉</p> <p style="text-align: center;"> <span style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">児童の活動・指導者のかかわりの様子</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">見取り</span> </p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>A児は、活動が始まるとすぐに自分の袋からどんぐりを選び、きりで穴をあけ、爪楊枝を長いまま刺した。すぐに回してみるとすぐ倒れていた。「先生、おれさまのどんぐりごま！」と指導者に見せに来て、そばにいた児童に「あ、かわいい！」と声をかけられる【支援のポイント：カ】と満足した様子で座り、「じゃ、今度何しよう？」とつぶやいた。隣で作っている児童のこまを見て、「もう1個作ろう。」とつぶやき、すぐに作り上げて「1号と2号完成！」とつぶやく。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>A児は、作り方は分かっており、作れたことには満足したが、遊ぶ楽しさはまだ味わっていない。</p> </div> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>B児は、活動への意欲が見られず、他の児童の様子を見て、きりでどんぐりに穴をあけ、そのまま回していた。思いを確かめようと「あけた後どうするのか。」と声かけた。        【支援のポイント：ウ】</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>B児は、何を作りたいかイメージをもてないでいたが、友達とかかわりながら活動への意欲を高めていた。</p> </div> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>C児は、どんぐりに穴をあけ、爪楊枝を刺し、それを短く切ってこまを完成させ回して遊んでいるのを見守った。</p> </div> <p>〈児童の育ち・評価〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>自分なりの考えをつくり出したA児</p> <p>A児は、観察して考えることは少なかったが、他の児童への指導者の声かけや友達とかかわりが効果的な支援になり、自分なりの考えをつかった。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【A児のあきのおもいでカード】        どんぐりもいっぱいおちてて、いろんな大きさがあるって、大きいのをひろいました。大きいどんぐりごまがよくまわるからです。</p> </div>



遊びの工夫・作り方の工夫

活動の様子を  
交流する

活動を振り返り、次  
時のめあてをもつ  
(カードの記入)

【支援のポイント：ク・ケ】

A児と同じ机で作っていた児童が「できたけど回らない。」とつぶやいていたので「もっともっと回るようになるといいね！」と励ました。【支援のポイント：キ】 A児は、「じゃあ、もっと練習すれば回るかもしれない」とつぶやいた。C児は「こうすればいいよ。」と爪楊枝を短く切ったこまをみんなに見せた。【支援のポイント：カ】 その場にいた児童は、それぞれにはさみで爪楊枝を短く切った。A児は、試してみて「回った！」と声をあげ、他の児童とともに回して遊び始めたが、すぐ戻ってきて3個目を作り始めた。できあがると友達と一緒に、椅子の上で何度も回して遊んでいた。

A児は、こまの作り方を工夫するという考え方はできずにいた。C児とのかかわりから、こまを作り直すことに気付き、回して遊ぶ楽しさを味わい始めた。

B児が「先生、小さいのができた。」と指導者に回して見せた。「小さいのは大きいのに負けちゃうね。」と声かけた。【支援のポイント：ク】 横で聞いていたA児は、「きっと小さいのは軽いからばたんと倒れちゃうんだよ。」「とんがったところがね…。」と自分なりの考えを一生懸命説明していた。遊んでいるA児のところへ来た児童が「Bくんの強いよ。大きいんだよ。」「バトルしてごらんよ。」と誘って連れて行った。【支援のポイント：カ】

振り返りの場面で指導者がクヌギのどんぐりを使って作った物を紹介した。A児は、「あれさ、どんぐりごまにしたら強いよ。」とつぶやいた。

B児は、友達とのかかわりをきっかけに、意欲的に活動するようになった。A児は、友達とのかかわりから自分の考えを確かなものにしていった。

C児は、爪楊枝の両端にどんぐりをつけた物（どんぐりたましい）を作り指導者に見せに来た。「どうやって遊ぶの？」と聞くと、転がしてみせたので「おもしろいね。」と価値付けた。【支援のポイント：ケ】 次に3個のどんぐりをつなげて見せに来た。転がしてみると2個のときより転がらなかった。不満げな表情で再び作り始めた。

C児は、こまの作り方を基に、工夫を始めた。どんぐりが2個よりも3個の方がよく転がるだろうと予想し、それに反した結果にまた違う工夫を考える様子が見取れた。活動の目的がはっきりし、できたことを認められた自信が、次の工夫につながったといえるだろう。

活動の楽しさから工夫を始めたB児

B児は、関心・意欲の向上とともに、自分のこまへの愛着を深め、遊び方を工夫するようになった。

考えを広げて活動に結び付けたC児

C児は、遊ぶ楽しさに加え、工夫して作る楽しさを味わっていた。その後も、いろいろなおもちゃを工夫して作っていた。

【C児のあきのおもいでカード】

わたしは、こうえんでどんぐりをひろって、おもしろいどんぐりおもちゃをつくりました。なまえは、けんだまとどんぐりずもうとどんぐりたましいです。

## IV 研究の成果と課題

### 1 研究の成果

(1) 「自立への基礎となる資質・能力」を明らかにしたことにより、

◎「自立への基礎となる資質・能力」をはぐくむ具体的な【活動や体験の要件】6点を明らかにすることができた。(52 ページ参照)

(2) 「自立への基礎となる資質・能力」をはぐくむ具体的な【活動や体験の要件】を考え、それらの要件を満たす活動を単元計画の中に位置付けた指導計画を作成し、実践・検証したことにより、

◎【活動や体験の要件】を指導計画作成時に明確に位置付けることで、一人一人の児童に具体的な活動や体験を通して「自立への基礎となる資質・能力」がはぐくまれることが明らかになった。

◎振り返りの活動で自分や友達の気づきを確認することは、後の学習への動機付けや興味・関心・意欲の強化に結びつき、児童の学びを確実に発展させていくために必要であることが明らかになった。

(3) 「活動や体験についての思考・表現」に重点を置いて、児童の姿を見取り分析したことにより、

◎児童一人一人の実態に応じた支援を行うための【支援のポイント】9点が明らかになった。(52 ページ参照)

◎【支援のポイント】を指導計画の中に位置付けて実践した結果、思考・表現だけでなく、他の観点の力も伸ばすことになった。【支援のポイント】が資質・能力全体にかかわっていることが明らかになり、大切であることが分かった。

(4) 生活科における「学習指導要領の基準性」、「補充的な学習」、「発展的な学習」についての考え方を明確にして、指導に生かしたことにより、

◎学びや気づきを発展させ生活化させていくために、単元を通して、振り返りの活動を取り入れることが大切であるということが明らかになった。

◎指導計画に「満足できる児童の姿」「努力を要する児童の姿」への支援を位置付けることが一人一人の実態に応じた指導に有効であるということが分かった。

### 2 課題

(1) 3観点のうち、「活動や体験についての思考・表現」に重点を置いて検証授業を行った。他の2観点から見た児童への支援が適切であるかということを検証する必要がある。

(2) 生活科における「発展」についての考え方をさらに研究していく必要がある。